

# 平成25年度三重県精度管理 細胞診フォトサーベイ結果報告

伊勢赤十字病院 医療技術部 病理課 ○道根慶悟

大西病院 検査室 前田勝彦

厚生連松阪中央総合病院 中央検査科 上森 昭

平成26年1月19日

# 資料の配布（web上での配布）

- 写真として症例15例（jpegで作成した資料）。
- 設問、解答はweb上で閲覧。

# 解答の回収方法

- 全てweb上での解答の回収方法です。
- 回収の結果：参加施設は22施設。  
全て問題なく回収されました。

# 解答の方法

正解不正解の評価をA～Dの4段階に設定しました。内訳は以下に示します。

- Aは正解
- Bは許容内正解（設問5で提示した細胞像が組織型を推定するうえで困難だった症例）
- Cは不正解だが良悪の判定はできていたもの
- Dは不正解

# 集計結果

平均正解数13.6問、正解率は90.6%でした。

- 症例15問のうち全正解が6施設
- 14問正解が9施設
- 13問正解が4施設
- 11問正解が1施設
- 10問正解が2施設

# 各施設における解答

No.	施設No.	正解数	正解率(%)	No.	施設No.	正解数	正解率(%)
1	9240003	14/15	93.3	12	9240038	14/15	93.3
2	9240002	11/15	73.3	13	9240044	13/15	86.7
3	9240007	14/15	93.3	14	9240042	15/15	100
4	9240008	13/15	86.7	15	9240043	15/15	100
5	9240012	15/15	100	16	9240050	14/15	93.3
6	9240014	13/15	86.7	17	9240052	10/15	66.7
7	9240021	14/15	93.3	18	9240056	14/15	93.3
8	9240066	13/15	86.7	19	9240058	15/15	100
9	9240034	14/15	93.3	20	9240061	15/15	100
10	9240027	14/15	93.3	21	9240134	15/15	100
11	9240032	10/15	66.7	22	9130575	14/15	93.3

# 各設問正解率(1)

設問		コード	解答	件数	(%)	正解	評価
No.1		1	陰性, 膾トリコモナス	21	95.5	正解	A
		3	陰性, 細菌性膾症を示唆する菌叢の転換	1	4.5		D
	小計			22	100.0		
No.2		2	上皮細胞異常, 軽度扁平上皮細胞(LSIL): 従来のMild	21	95.5	正解	A
		1	正常扁平上皮細胞	1	4.5		D
	小計			22	100.0		
No.3		1	正常頸管内膜細胞	1	4.5		D
		5	子宮頸部腺癌	21	95.5	正解	A
	小計			22	100.0		
No.4		3	単純型子宮内膜増殖症	2	9.1		D
		4	類内膜腺癌	20	90.9	正解	A
	小計			22	100.0		
No.5		1	中等度異形扁平上皮細胞	1	4.5		D
		3	扁平上皮癌	9	40.9	正解	A
		4	小細胞癌	1	4.5		C
		5	腺癌	11	50.0	参考	B
	小計			22	100.0		

# 各設問正解率(2)

設問		コード	解答	件数	(%)	正解	評価
No.6		2	尿路上皮癌(G2~G3)	1	4.5	参考	C
		5	小細胞癌	21	95.5	正解	A
	小計			22	100.0		
No.7		1	正常中皮細胞	2	9.1		D
		3	腺癌	20	90.9	正解	A
	小計			22	100.0		
No.8		1	正常中皮細胞	1	4.5		D
		2	扁平上皮癌	21	95.5	正解	A
	小計			22	100.0		
No.9		5	転移性腺癌	22	100.0	正解	A
	小計			22	100.0		
No.10		1	反応性リンパ節炎	3	13.6	正解	A
		2	壊死性リンパ節炎	18	81.8	正解	A
		3	ホジキンリンパ腫	1	4.5		D
	小計			22	100.0		



# 各設問正解率(3)

設問		コード	解答	件数	(%)	正解	評価
No.11		4	非ホジキンリンパ腫	21	95.5	正解	A
		5	転移性腺癌	1	4.5	参考	C
	小計			22	100.0		
No.12		2	乳管内乳頭腫	1	4.5		D
		3	充実腺管癌	1	4.5	参考	C
		5	アポクリン癌	20	90.9	正解	A
	小計			22	100.0		
No.13		3	乳頭腺管癌	1	4.5	参考	C
		5	粘液癌	21	95.5	正解	A
	小計			22	100.0		
No.14		1	過形成細胞	1	4.5		D
		3	膵管癌	21	95.5	正解	A
	小計			22	100.0		
No.15		1	多形腺腫	3	13.6		D
		4	粘表皮癌	19	86.4	正解	A
	小計			22	100.0		

## ・目標

正解率80%を目指す

## ・結果

正解率は90.6%

## ・反省点

良悪の鑑別ができなかった	4症例
正解率が低かった	2症例

# 考察(1)

- 今回のサーベイの結果、全施設における平均正解率は90.6%で目標をクリアーでき満足できる結果となりました。
- 本来の目標である各施設において80%以上の正解を期待した出題意図からすると3施設(14%)で目標の達成がなされず残念な結果となりました。
- 3施設のうち2施設が同じ症例の間違いが4問ありました。症例4 症例5 症例7 症例15です。症例4の正解は類内膜腺癌ですが単純型子宮内膜増殖症と判定されていました。核の重積性、不整形細胞集塊、核小体の目立つところから悪性と鑑別できると思われます。症例5の正解は扁平上皮癌ですが、11の施設で腺癌と判定されていました。非常に難しい症例と思われます。腺腔様のところが見うけられ、核がやわらかい所から多くの施設で腺癌とされたものと思われます。細胞集塊はやや平面的で、細胞境界は不明瞭、やや濃染性の細胞質、核が濃縮傾向を示す細胞があり扁平上皮への分化が認められます。

## 考察(2)

- ・症例7の正解は腺癌ですが、正常中皮細胞と判定されていました。核の偏在、細胞質の粘液所見に注目することで正診できるものと思われます。症例15の正解は粘表皮癌ですが多形腺腫とされていました。扁平上皮様細胞と細胞質に粘液を有する細胞の2種類が見られることより鑑別可能と思われます。
- ・症例10は18施設で壊死性リンパ節炎と判定されていました。写真では背景が赤血球の重なりによりやや汚く見え、核片を貪食する組織球を認めるところから、壊死性リンパ節炎とされたものと思われます。壊死性リンパ節炎では、好中球を認めず、背景に壊死物質がみられ、核片を貪食する三日月状核の組織球が多数認められます。反応性リンパ節炎では、多くの小型リンパ球の出現、リンパ球の分化、橢円形核の組織球がみられます。正解は反応性リンパ節炎として頂きたかったのですが、両者とも組織球、小型リンパ球、リンパ球の分化が認められ、細胞診のみでは確定診断は難しく、壊死性リンパ節炎も正解としました。

## 症例4

# 良悪の鑑別ができなかった症例

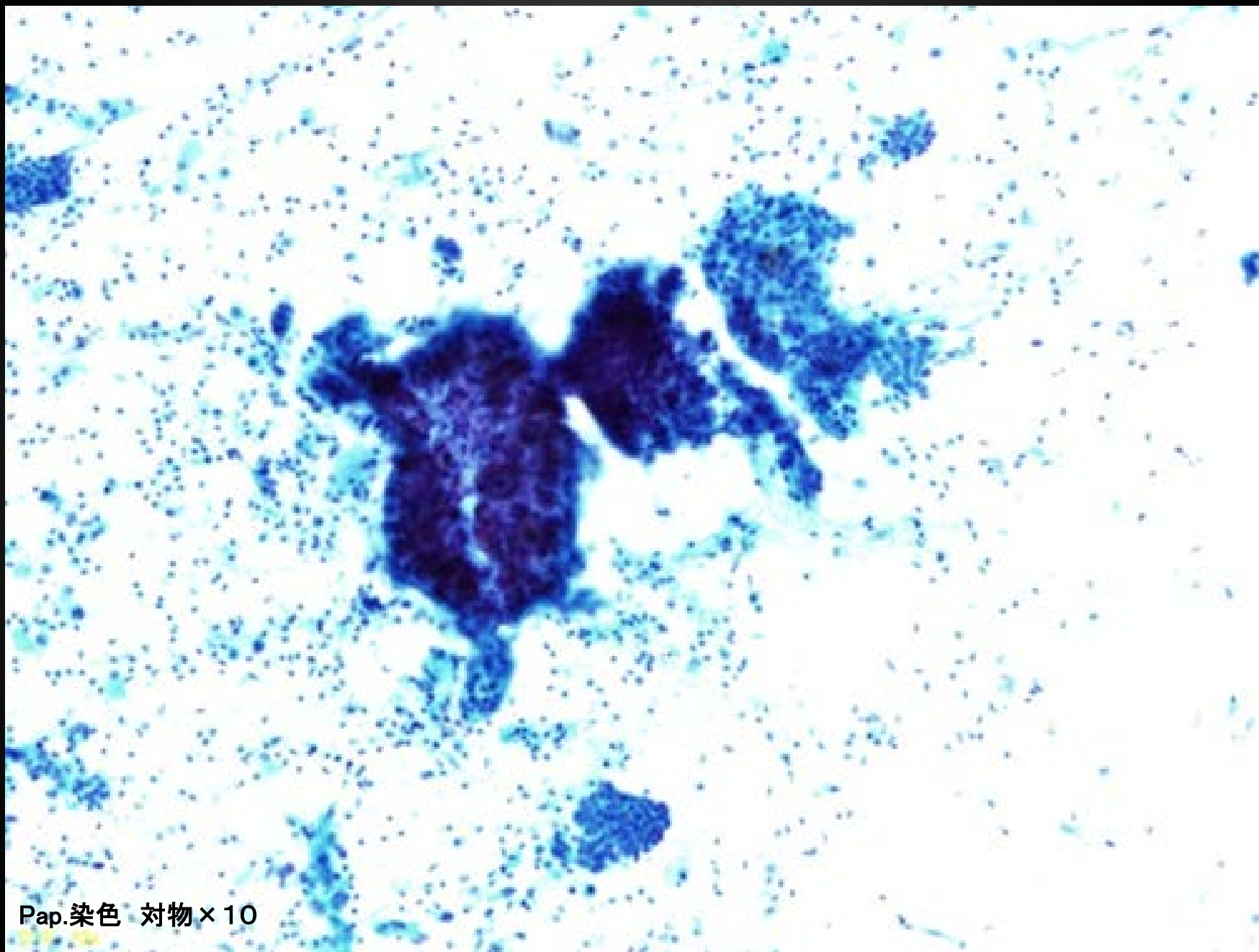
年齢・性別： 60歳代、女性

採取部位(方法)： 子宮内膜擦過

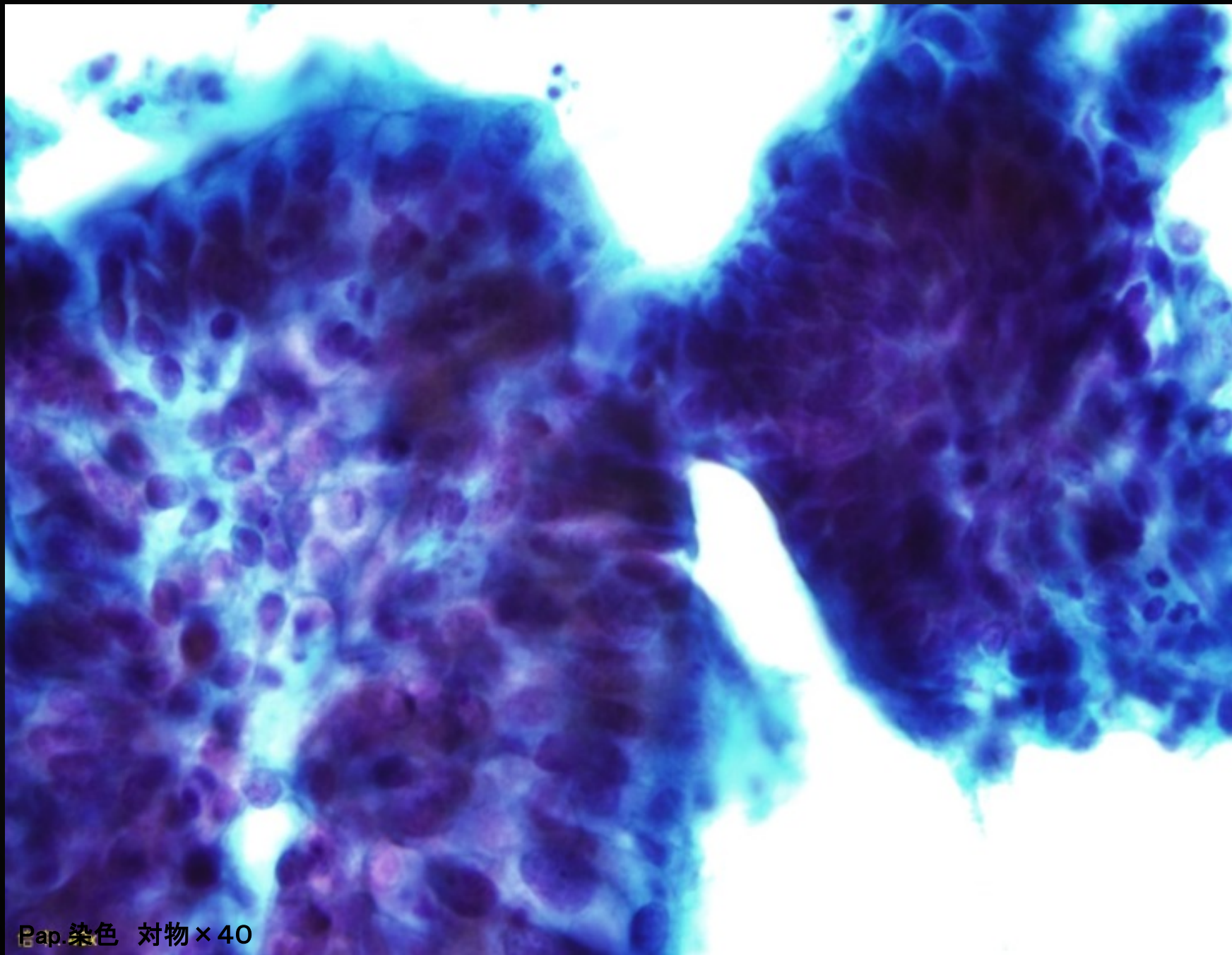
臨床所見： 不正出血

正解：類内膜腺癌 90.9%

不正解：単純型子宮内膜増殖症 9.1%



Pap.染色 対物×10



Pap.染色 对物×40

# 症例5

## 正解率が低かった症例

年齢・性別： 70歳代、男性

採取部位(方法)： 気管支擦過

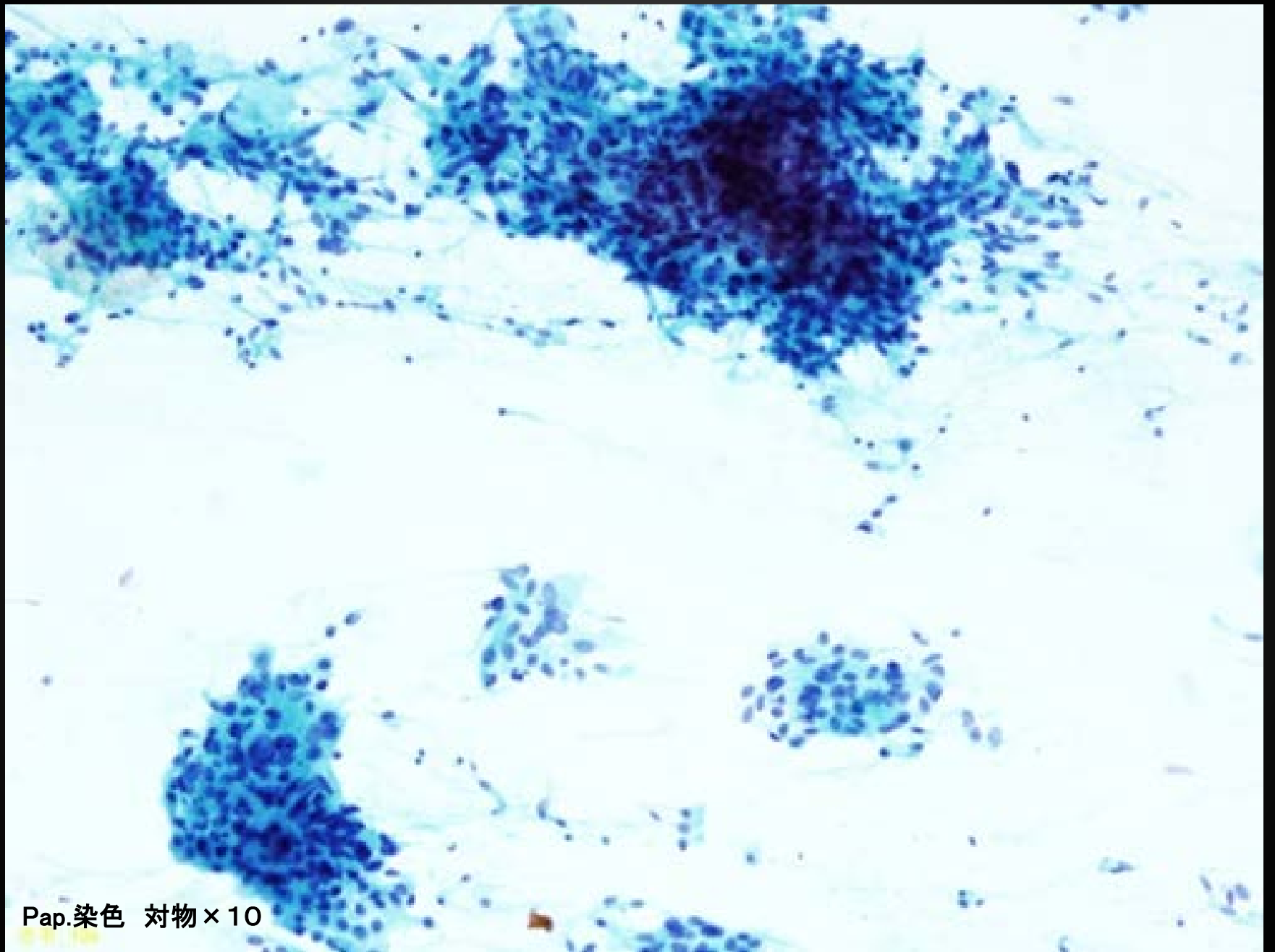
臨床所見： 血痰

正解：扁平上皮癌 40.9%

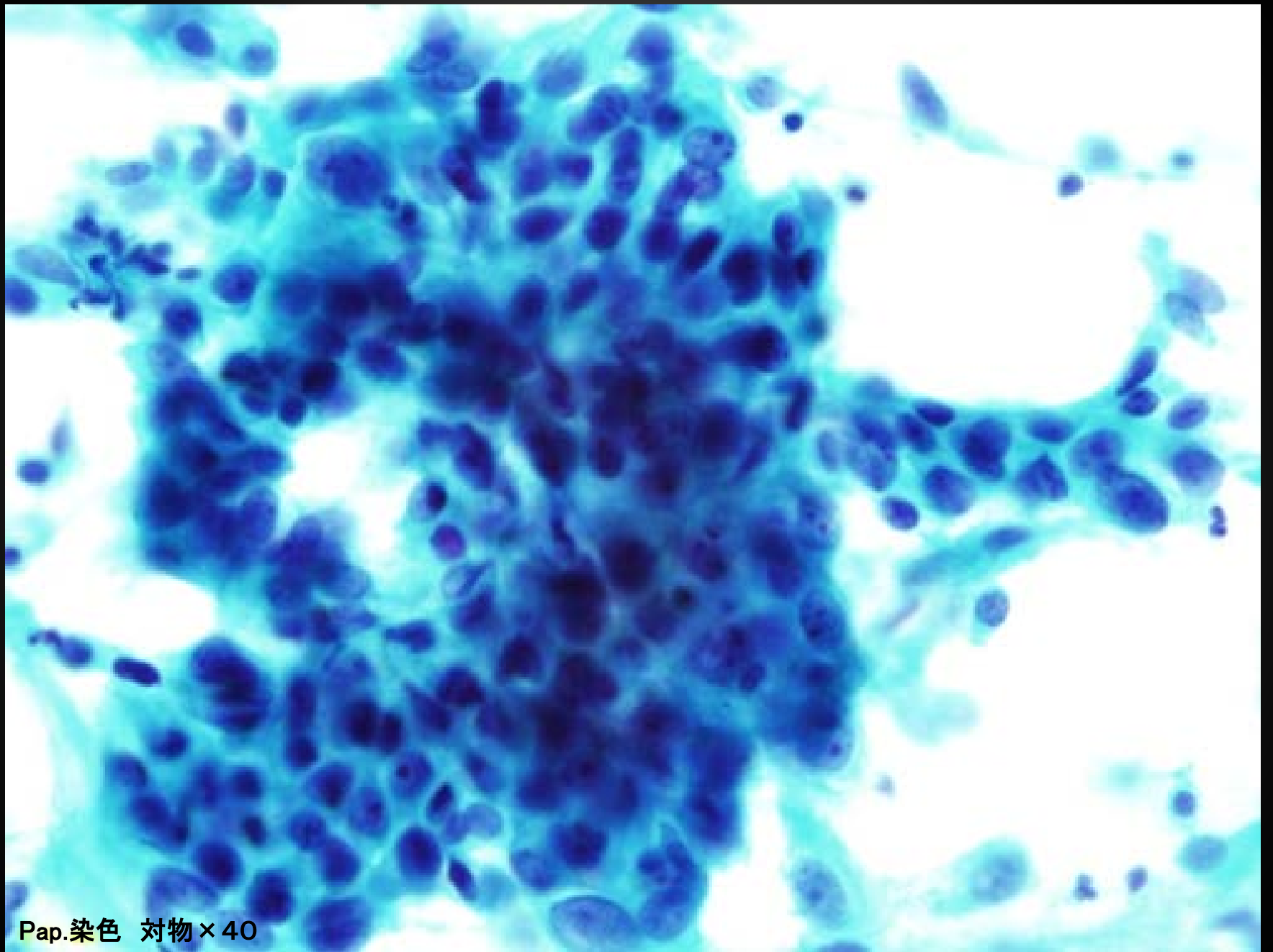
不正解：腺癌 50.0% 中等度異型扁平

上皮細胞 4.5% 小細胞癌 4.5%





Pap.染色 对物×10



Pap.染色 对物×40

## 症例7

### 良悪の鑑別ができなかった症例

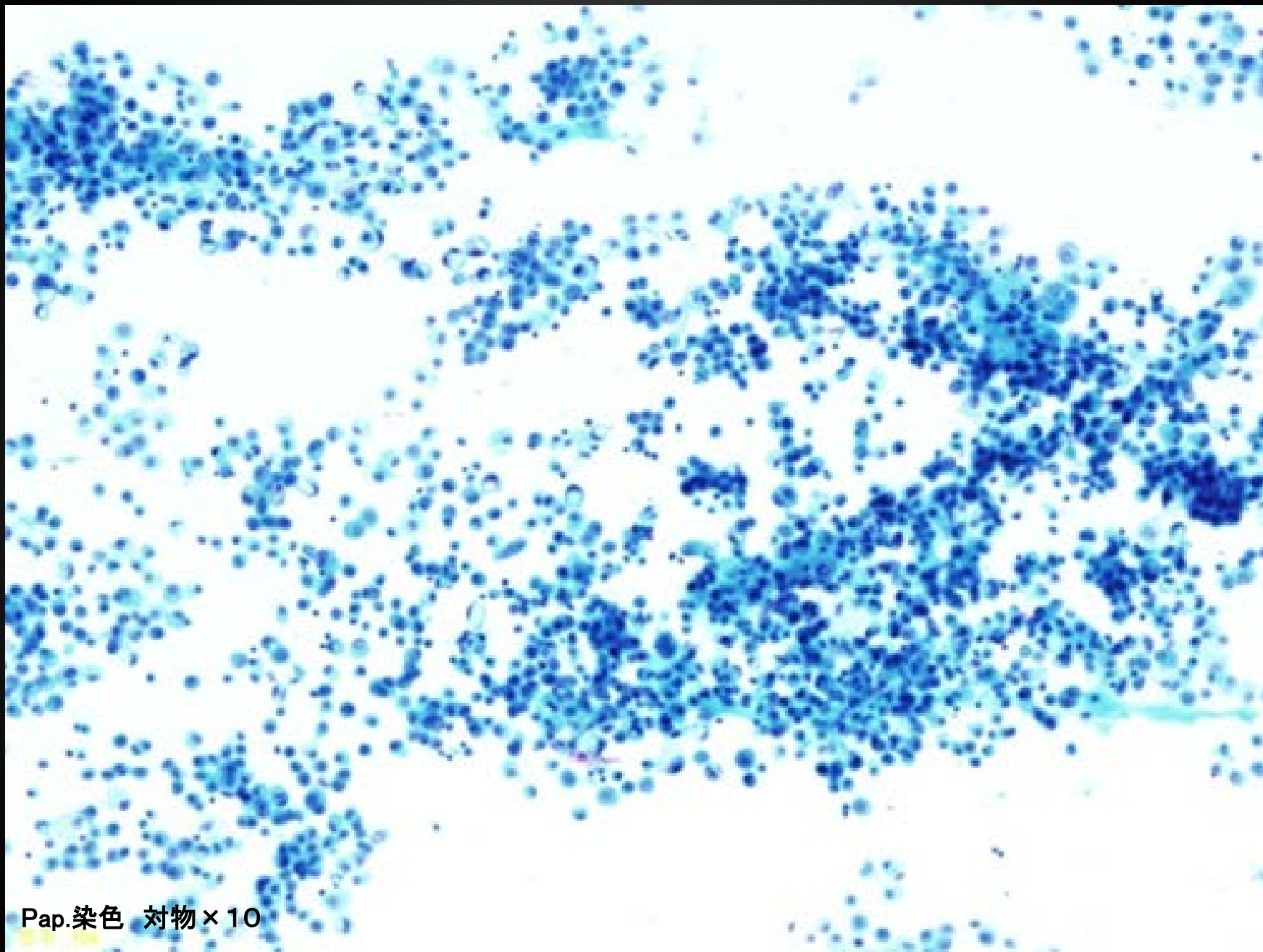
年齢・性別：80歳代、男性

採取部位(方法)：腹水

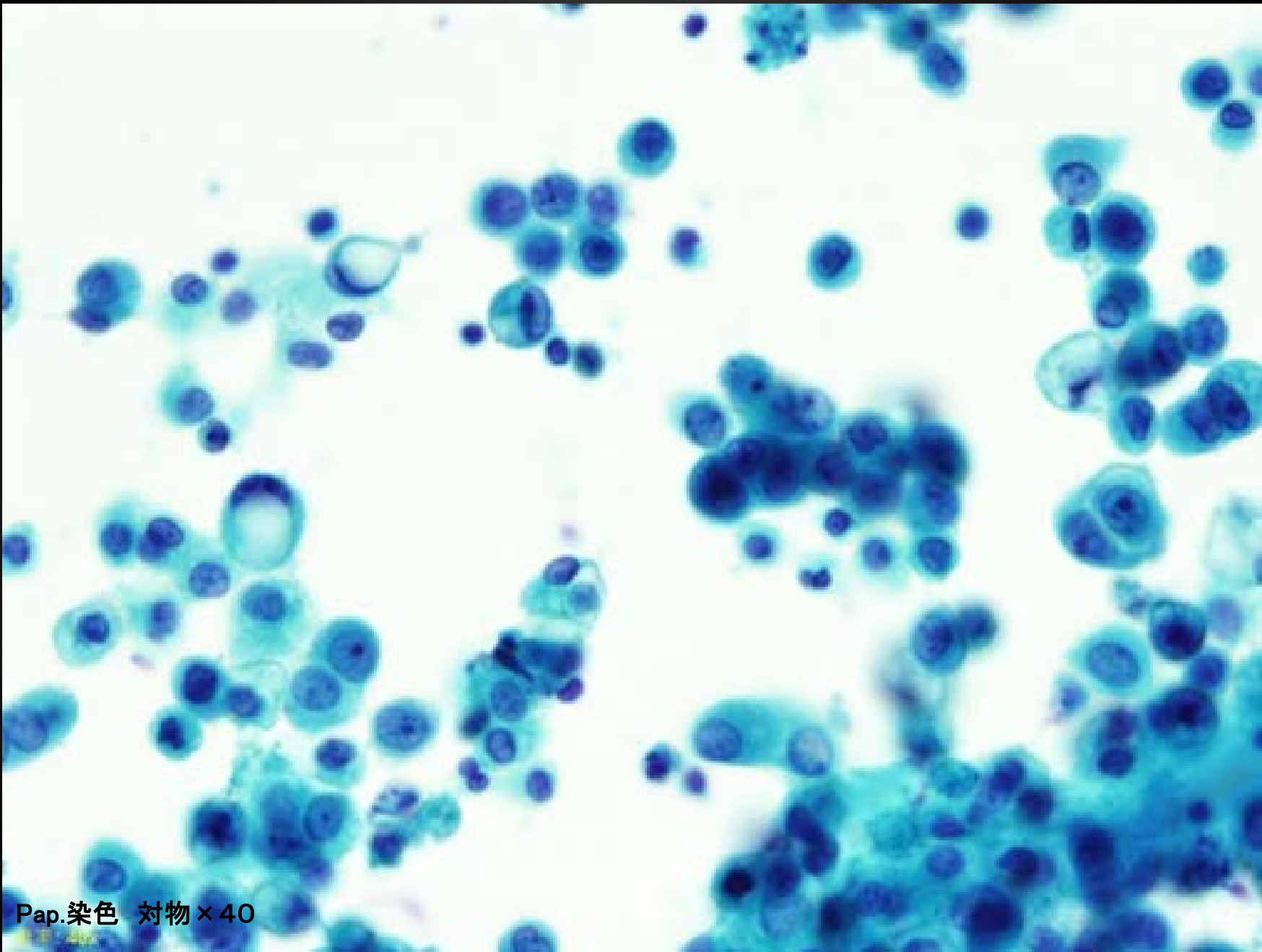
臨床所見：胃癌術後

正解：腺癌 90.9%

不正解：正常中皮細胞 9.1%



Pap.染色 対物×10



Pap.染色 対物×40

# 症例10

## 正解率が低かった症例

年齢・性別： 20歳代、女性

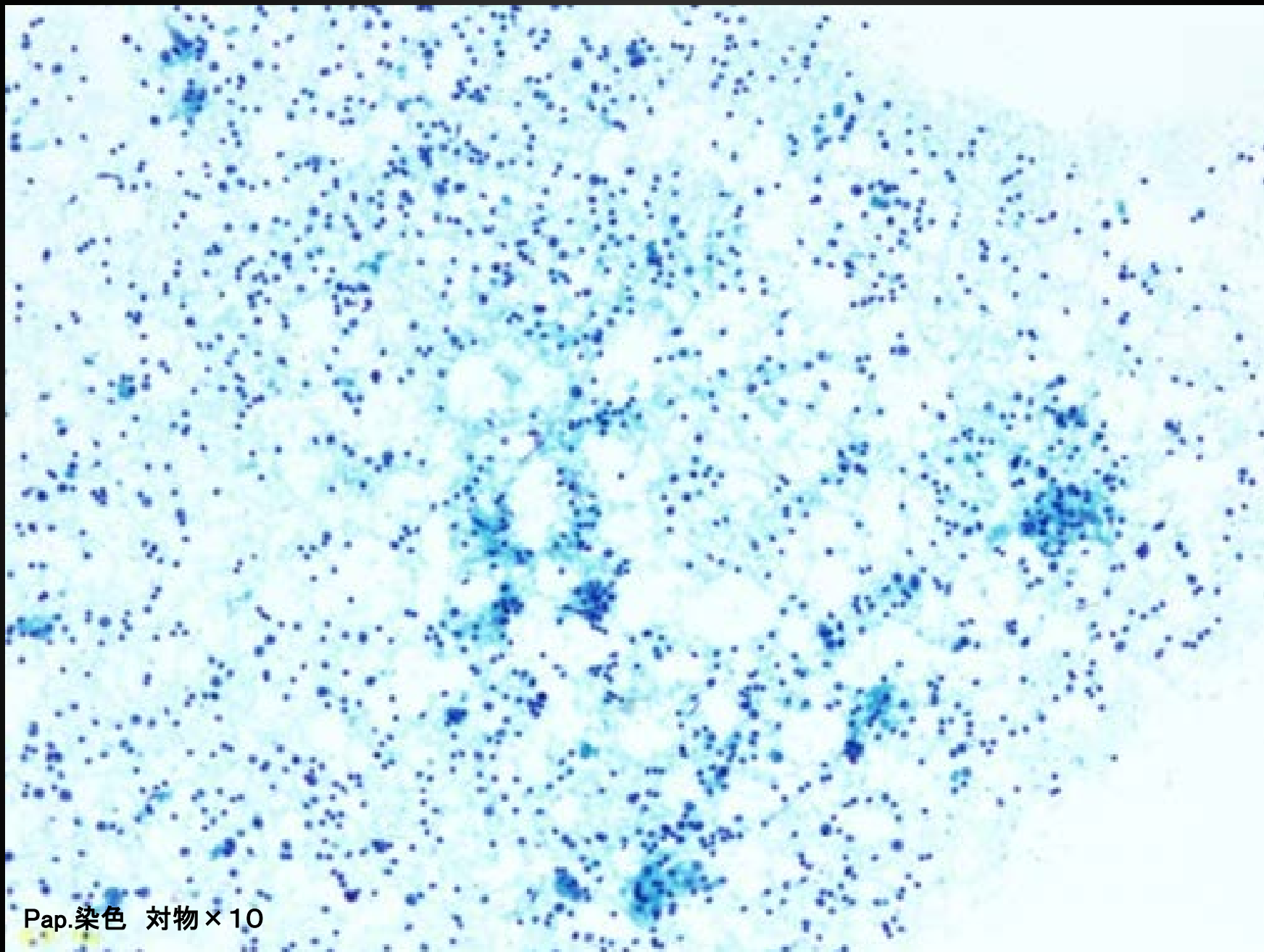
採取部位(方法)： 頸部リンパ節穿刺

臨床所見： 頸部リンパ節腫大

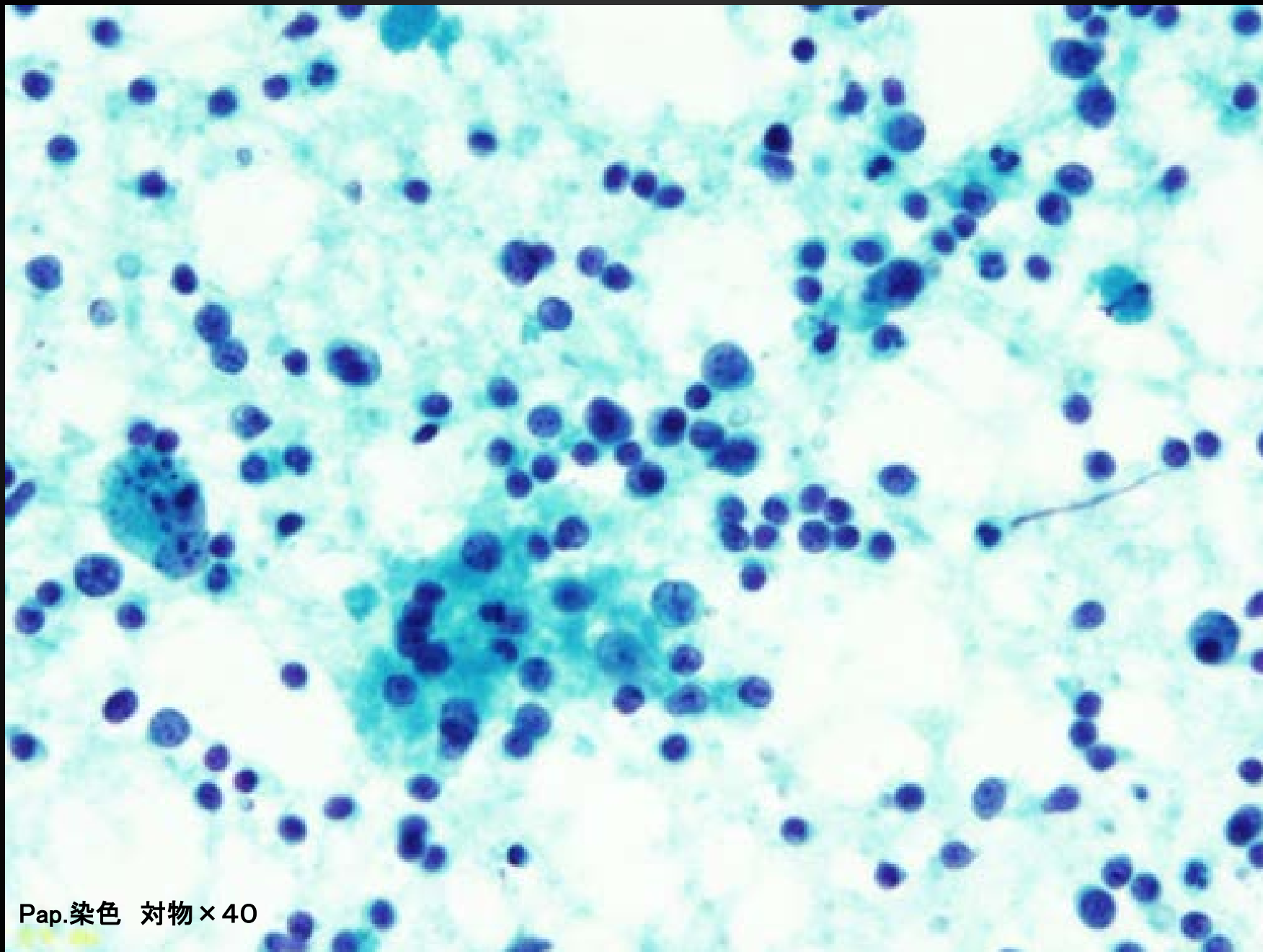
正解：反応性リンパ節炎 13.6%

不正解：壊死性リンパ節炎 81.8%

ホジキンリンパ腫 4.5%



Pap.染色 対物×10



Pap.染色 对物×40



## 症例15

### 良悪の鑑別ができなかった症例

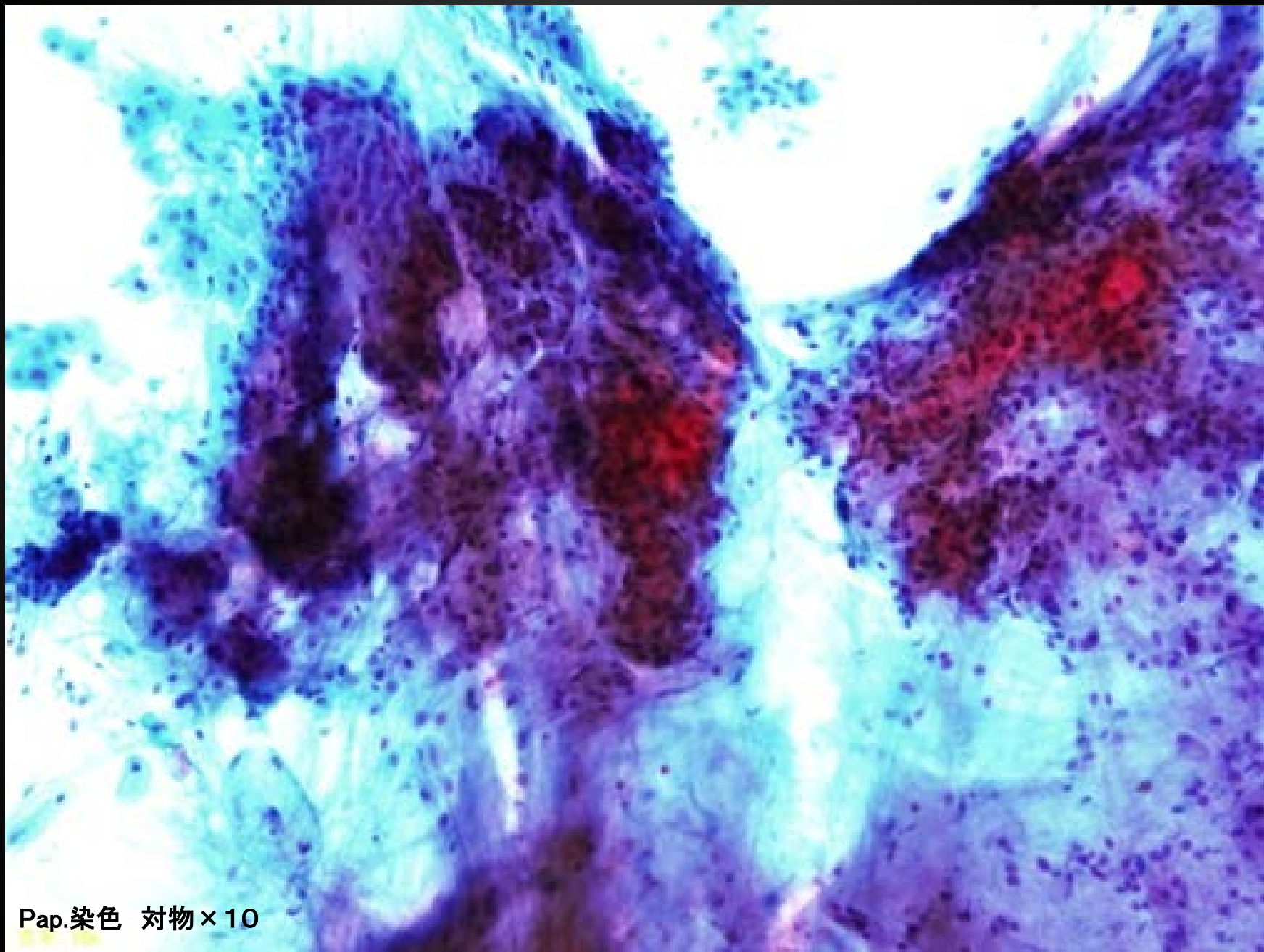
年齢・性別： 50歳代、男性

採取部位(方法)： 耳下腺穿刺

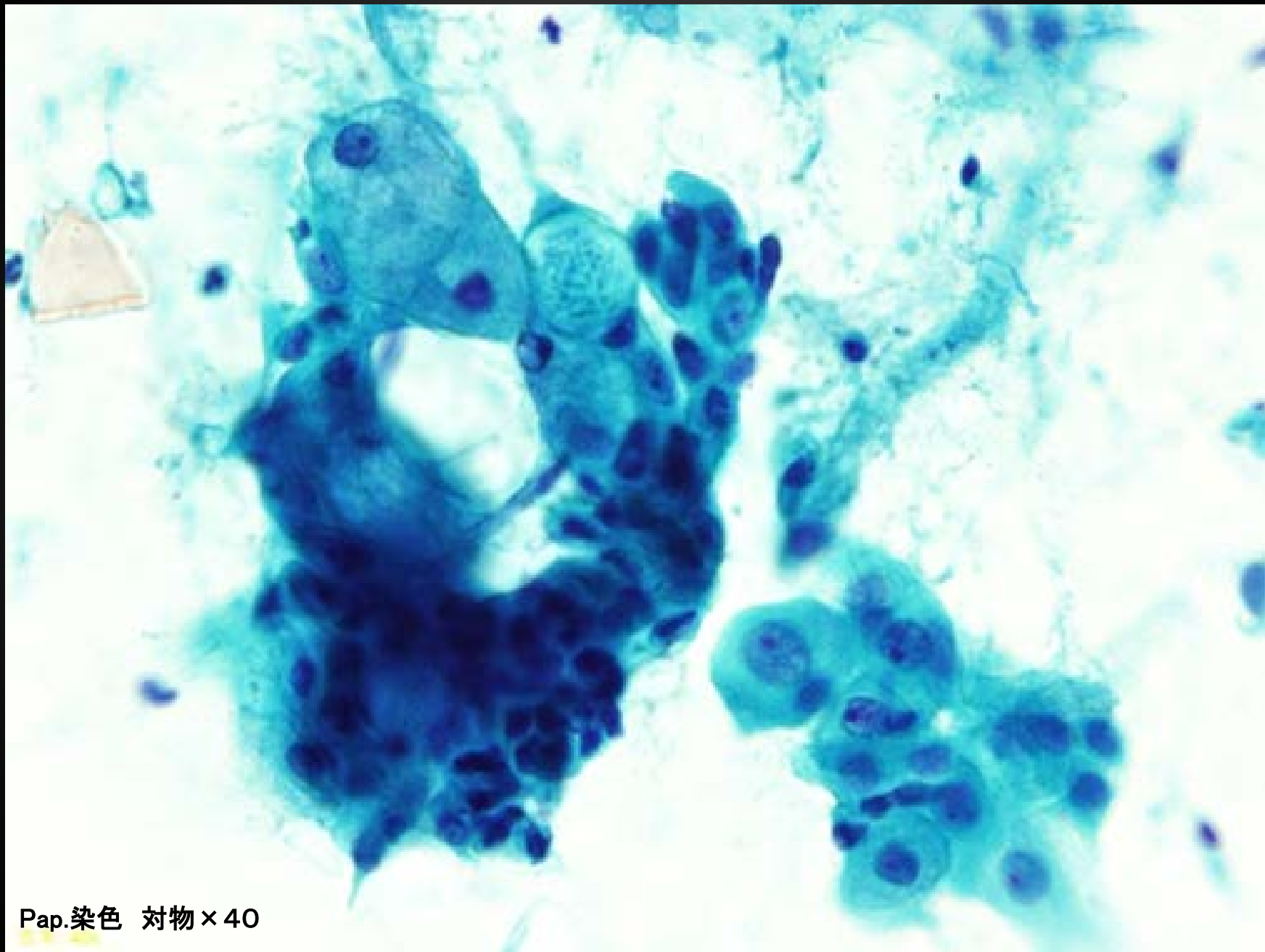
臨床所見： 右耳下腺腫瘍

正解：粘表皮癌 86.4%

不正解：多形腺腫 13.6%



Pap.染色 对物×10



Pap.染色 对物×40

# まとめ(1)

- 正解率80%以上をクリアすることができた。
- 症例5、症例10の正解率が極めて低かった。提示した写真は背景がやや不明瞭であったこと、細胞集塊が偽腺腔様に見え組織型の鑑別に苦慮したことが原因であると考えられる。

## まとめ(2)

- ・フォトサーベイにおいては、各症例2枚ずつの提示であり、スライド全体を観察できるわけではない。鑑別が困難な症例では、背景や異型細胞の一部しか見れないという点において、提示写真の部位や枚数など問題の提出方法に課題があると思われた。